

部局名

医学部附属病院産婦人科

担当: 桂木 真司



テーマ

産婦人科外来を全ての患者さんに寄り添える特別な場所にするために

概要

本プロジェクトは、宮崎大学医学部附属病院産婦人科外来のリニューアルを行い、患者さんやご家族が少しでも心地よく快適に過ごすことのできる空間の提供を目指すものです。



背景

宮崎大学医学部附属病院産婦人科外来は、これまで宮崎県における産婦人科医療の砦を担ってきました。一方、待ち時間に一人ひとりの患者さんに寄り添った環境を提供できているかという点については課題が残っています。実際に、患者さんやご家族の方を対象としたアンケートを実施したところ、「腰に負担がかからないような椅子が欲しい」、「お腹が大きくなると座って長時間待つ姿勢が苦しい」、「カーテンを開けることなく内診のモニターを見られるといい」、「授乳室には男性も入れるようにして欲しい」などの声が上がりました。しかしながら、これらの課題を解決しようにも、院内における予算配分は「命や診療に直結する項目」や「診療報酬に直結する項目」が優先されます。そのため、今回クラウドファンディングに挑戦することで、リニューアルに係る費用を集めようと考えました。



クラウドファンディング

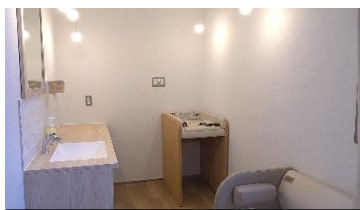
結果

寄付総額
7,210,000 円 目標金額 5,500,000 円
寄付者 286人 募集終了日 2023年11月29日

授乳室の改修費用を集めるため、目標金額を5,500,000円に設定したクラウドファンディングを実施し、286名の方から、総額7,210,000円の寄附をいただきました。結果、「妊婦さん、婦人科の患者さん、その家族に優しいイスの導入」、「家族で利用可能な授乳室の設置」、「診察室内にモニターを設置」を実現することができました。本当にありがとうございました。

プロジェクトを通しての成果

長時間の待ち時間も快適に過ごせるよう、妊婦さん、婦人科の患者さんの体に配慮した座り心地のよい椅子を外来に設置し、以前よりも10席増やすことができました。また、明るく温かみのあるデザインで、ママだけでなくパパも安心して利用できる授乳室に改修しました。さらに、診察室内にモニターを設置したことで、医師と患者さんがともに画面を見やすくなり、より近くで赤ちゃんの様子を確認できるようになりました。



家族で利用可能な授乳室



診察室内にモニターを設置



妊婦さんに優しい椅子の導入